

会 議 名	第 24 回 港区景観審議会
開 催 日 時	令和 3 年 3 月 17 日 (水) 18 時 00 分から 19 時 00 分まで
開 催 場 所	区役所 9 階 911 会議室 (オンライン併用)
委 員	(出席者) 倉田 直道 委員 齋藤 潮 委員 須佐 直人 委員 竹崎 典夫 委員 田邊 学 委員 長谷 高史 委員 沼田 麻美子 委員 山崎 誠子 委員 渡邊 大志 委員 (欠席者) 堀口 勢津子 委員
	(臨時委員：港区景観アドバイザー) 菅原 大輔 氏
事 務 局	都市計画課長、開発指導課長、街づくり計画担当係長・係員、景観指導係長・係員
傍 聴 者	なし
会 議 次 第	1 開 会 2 議 事 (1) 第 5 回区民景観セレクションの実施について (2) 区民景観セレクションの今後の取組について 3 閉 会
配 付 資 料	資料 1 第 5 回区民景観セレクションの実施について 資料 2 区民景観セレクションの今後の取組について 参考資料 1 第 5 回区民景観セレクションの公募チラシ (案) 参考資料 2 区民景観セレクション選定景観 (第 1 回～第 4 回) 一覧 参考資料 3 令和 3 年度港区景観表彰の実施概要及びスケジュール 参考資料 4 港区景観表彰実施要綱 参考資料 5 港区景観表彰選定審査会運営要領 参考資料 6 港区景観審議会委員名簿
会議の結果及び主要な発言	
(発言者)	1 開 会 2 議 事 (1) 第 5 回区民景観セレクションの実施について

事務局	(資料1について説明)
A委員	「一般の人が立ち入ることのできない場所」は対象外とあるが、入場料のかかる公園などは対象外となるか？
事務局	対象外とはならない。マンション等プライベートな場所から見える景観は対象外と考えている。
B委員	船の上等の水上からの写真は含まれるか？水上だとすると区の境目の判断が難しいのではないか？
事務局	水上からの写真も対象となる。港区の景観であるかどうかは、住所を記入してもらうので、参考にしながら判断する。
C委員	飛行機等から見た、俯瞰した景観は対象となるか？水辺という観点だと、横からだけでなく俯瞰的なものも効果的ではないか？
事務局	写真を拝見したうえでの判断になる。
D委員	噴水は対象となるか？
E委員	開発の大きな人工の滝も候補に入るのではないか？
事務局	水が入れば対象となる。港区には、海、古川、寺社の池等のほか、指摘の通り、開発で整備した優良な水景観も多くあると考えており、そうしたものも対象としたい。
A委員	事務局原案を了承する。
	(2) 区民景観セレクションの今後の取組について
事務局	(資料2について説明)
F委員	50選を紹介する方法として、写真では切り取った場所の情報だけなので、動画で周りもよく見えるように紹介してはどうか？空気感がわかるような紹介の仕方を期待したい。
G委員	過去に選定されたセレクションには、以前は良かったけれど、今はセレクト

	<p>ションに値しなくなっているものなど、再評価が必要なものがあるように感じる。また、区民や市民の参加を重視した自治体では「景観謎解き」が実施されている。地図を作成し、その場所に行かなければ解けないようなクイズを設定して、景観を巡りながら数箇所を回ってクイズを解くと、参加賞がもらえるというような仕組みで、〇〇区では100件程度設定し、すべてを制覇する人もいたようである。人が集まるイベントは開催しにくい時期なので、家族・親子単位で楽しめるような仕組みがあるとより身近なものになるのではないか？</p>
A委員	<p>過去に選出したセレクションの追跡調査は重要と考える。謎解きを絡めたスタンプラリーのような仕掛けで、区民が追体験できるのは公表の方法として面白い。</p>
H委員	<p>いままでのセレクションでは、建物、歴史など、わかりやすいところから取組んできているが、アフターコロナでは、空地や広場など、何も無い場に意識が向いてきている。これらを主な対象としてはどうか？</p>
会長	<p>在宅勤務の増加もあり、今まで気づかなかった身近な空間にも注目が集まっている。そのような視点で募集するのも良いのではないか？</p>
E委員	<p>50選の中からベスト3、ベスト5を選抜してはどうか？</p>
A委員	<p>再評価と絡んで実施すると、より効果的になるか。</p>
D委員	<p>選定した景観の再評価は重要だが、景観はその人にとって意味があるものなので、順位付けはなじまないのではないか？また公表の方法として、ほかの自治体の例として、△△市では100選の景観について、テーマごとのルートを設定し、街歩きのツールとしている。このように区民が景観を再発見して楽しむというのも考えられるのではないか？</p>
C委員	<p>今後は動画の展開が良いのではないか？今までのセレクションは写真による特定の角度での紹介でしかない。広角で見るとそれ以外の要素も含まれるはずである。区民景観セレクションの公募や公表の際に「景観」の定義が書かれていないが、港区としての「景観」の捉え方として、動画的な捉え方を主張してもよいのではないか？先程の議論にもあったが、ルートを設定し、シーケンスや空間を感じる中で景観を捉えることができ、匂いや音も含んで景観を構成していることも、景観の視点として考えられると良いのではないか？</p>

A委員	画角を超えた視点からの再評価は重要ではないか？
I委員	港区の景色は変わりつつあり、今までの50選の維持ができるかという懸念がある。また、公表方法として、Googleマップにセレクションの場所をプロットし、クリックすると写真が見ることができ、「いいね」評価も付けられるような仕組みがあれば、評価の高い景観が分かり、観光案内等にも活用できるのでは？
B委員	これまで選定したセレクションの一覧を見た時に、全体として寂しい印象がしたが、人が写っていないことが大きな理由であると感じる。人自体は景観ではないが、どのような人がどのようなことをしているかで、その場所が魅力的に変わることがある。これまでのセレクションでは、シーンやシークエンスをそれなりに捉えていたが、今後はヒューマンスケープ、アクティビティをより意識した景観を対象とするのが良いのではないか？港区は、国籍、年齢層、勤めで来る人など、23区の中でも多様な人が昼夜入れ替わっており、このような人々の存在が様々な景観を構成している。こうしたことも景観として捉えられると良いと思う。
A委員	先ほどアフターコロナの話もあったが、にぎわいや、人の存在を表に出すような工夫が必要か？
B委員	第5回の「水辺」で代表的なテーマがある程度網羅される感じがあるので、次のステップへ展開していくような工夫が必要ではないか？
A委員	第6回以降の実施方法として、第6回をハード視点ではなくソフト視点にするなどの特別なテーマとして実施し、第7回以降はこれまで通りのテーマ設定とするか、または、第6回を転換点として、それ以降のテーマ設定を全体的に変えるということが考えられる。
B委員	どのように実施していくかは、50選の再評価によると思うが、ある程度風景としての景観が網羅されているという再評価の結果であれば、次回以降のテーマ設定を全体的に変えていくという判断もあるのではないか？また、応募方法として、ARの技術を使って、物質としてのそこにある景観に、港区が発信する情報を合わせることも考えられる。情報を知っているからこそ見えてくる景観等もあるのではないか？
D委員	都市デザインの世界でも「プレイスメイキング」という言葉がよく出てく

	<p>る。空間があって、そこにどのように人が関わるかによって、風景が生まれてくる。場所を人がどのように使っているかを、新しい切り口として導入し、景観として再評価してはどうか？今まで選定されたセレクションの中にも意識したものがあつたように思うが、より意識すると良いのではないか。例えば、街路はカフェが出ていると違う風景になったり、またお祭り等の非日常的活動があることで風景が面白くなったりする。人々がいきいきと、楽しみながら、場を積極的に使っていくような取り組みが様々なところで行われているので、こうした観点も必要ではないか？</p>
J委員	<p>今後新しい10件を選ぶのと同時に、最も古い10件は外していき、新陳代謝する50選としてはどうか？開発事業等で変わっていく景観がある中で、その時々で港区がおすすめする景観を知ることができる。また、今後のテーマ設定の新たな対象として、にぎわいのある景観等を対象とする場合、肖像権が課題となるのではないか？背中しか写真に撮れないということも発生するため、こうした観点も議論する必要がある。</p>
D委員	<p>50選を更新する方向性とする場合、当初の議論のイメージは、100選が目標であったため、絶対的な目標ではないが、確認は必要ではないか？</p>
E委員	<p>時間軸を意識して分類してみてもどうか？同じ景観でも、春に見るといいもの、夏に見るといいもの、あるいは朝昼晩それぞれに見るといいものがある。セレクションの散策ルートを設定するにしても、季節ごとにおすすめのコースも変わってくるのではないか？</p>
D委員	<p>分類だけでなく、今後のテーマの設定方法も四季を感じる景観とすると違うものが出てくるのではないか？</p>
A委員	<p>これまでのセレクションをプロットした地図の中に空白地帯があるが、時間で区切るとより空白となる部分が出てくるかもしれない。</p>
G委員	<p>新しいテーマの設定は来年の状況が読めない中で、難しい部分もあるため、テーマ設定は慎重になる必要がある。例えば「賑わい」は密になる可能性が高いため評価が難しい。テーマ設定の議論以外にも、非接触でもできるような応募方法の検討などもできるので、今できること、できないことをある程度区分して考えるべきではないか？</p>
H委員	<p>これまでの募集方法は、本当は教えたくない、とっておきの景観をこっそり教えてほしい、というニュアンスなので、人がいない景観が多いのでは</p>

	ないか？応募の仕方を少し工夫し、こっそり教えてほしいというニュアンスではなく、観光客や来客者目線も入れて、活気のある景観を評価してはどうか？
A委員	人に注目するにあたっては、相応の応募の方法・仕方があるのではないか？
B委員	これまでのセレクションをプロットした地図の空白地帯を見てみると、国会議事堂、赤坂御用地、広尾の大使館街のあたりが空白となっているか？おそらくこのあたりに住んでいる区民が少ないと想像するが、逆に言うと港区にしかない場所ではないか？空白地帯となっているあたりは、区民セレクションとは違うという表現はありうるが、残り50選が蓄積された時に、あまり恣意的になってはいけませんが、地図を最後にどのように仕立てるかという視点で、戦略的に公募・選定していったらどうか？
I委員	季節感は、とても大きな景観の要素であると感じる。応募時期の季節を変えていくだけでも、変わるのではないか？また、雨の似合う景色、晴れの似合う景色など気象条件でのテーマ設定も考えられる。いままでは、ある種ベタなテーマ設定であったが、雨、天気、光等を捉えたテーマ、例えば、俳句が浮かぶようなテーマ等、このように解釈すると面白いかもしれないというテーマ設定が望まれる。
A委員	江戸名所百景のように、同じ景観でも、雨もあれば、雪もあり、面白い観点かと思う。今後季節を意識するのであれば、ある季節をメインシーズンに、その他の季節を選択シーズンに設定した上で、どの季節でも出せるようにするというのもあるかもしれない。
事務局	次回の審議会では、本日の意見を整理し、これを踏まえた今後の景観セレクションの実施の方向性について、議論していただく。
A委員	50選の公表方法にしろ、新たなテーマ設定や応募手法にしろ、今回の議論が大きな転換点となる。引き続き検討されたい。
	3 閉会